

(別紙 4)

宮城県における効果的な捕獲に係る技術開発評価報告
(効果的捕獲促進事業)

1 対象指定管理鳥獣の種類及び技術名

指定管理鳥獣名	ニホンジカ
技術名	低密度地域における効果的な捕獲方法の検討

2 現状の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の状況及び課題等

県沿岸部を中心に生息しているニホンジカは、近年、内陸部へと生息分布を拡大しつつある。

分布辺縁は低密度となり捕獲効率が悪いことから、捕獲方法の低コスト化及び省力化を図り、更なる生息分布の拡大を防止していく必要がある。

3 開発技術の具体的な内容等

1 生息状況等調査

- ・ ライトセンサス、自動撮影カメラ設置、及び麻酔銃による生態捕獲を行い、低密度地域における生息分布及び行動範囲を特定するもの。

2 ICT を用いた効果的な捕獲方法の実証

- ・ 捕獲方法の省力化のため、ICT 監視・給餌システムを用いた小型囲い罠による捕獲実証を行うもの。

3 GPS を用いた生息適地（出没可能性）及び嗜好性の高い環境要因の推定

- ・ 生態捕獲個体の GPS 情報及び環境 GIS 情報より、低密度地域における生息適地（出没可能性）及び嗜好性の高い環境要因を特定し、わな設置場所の選定等に役立てるもの。

注 1：開発技術の具体的な内容については、技術の特徴、導入効果、成果目標、有効性、普及性、既存の技術との比較など分かりやすく記述すること。

注 2：開発する技術の仕組み等が分かる資料を添付すること。

注 3：事業終了後の評価報告においては、注 1 を踏まえ、その評価結果を具体的に記入すること。

4 その他

実証内容のうち、「ICT を用いた効果的な捕獲方法の実証」については、実証期間が短く捕獲に至らなかったことから、次年度も改良の上継続実施する。

また、「GPS を用いた生息適地（出没可能性）及び嗜好性の高い環境要因の推定」について、令和5年度事業において、生息適地及び不適地に実際にわなや自動撮影カメラを仕掛け、出没傾向等との関連について検証を行う。

注1：地域実証に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。